

課題解決型 国際協働学習の実践と成果

～防災世界子ども会議 NDYS 2016 in 新潟 での成果発表～

神戸市立葺合高等学校 茶本卓子

人々の防災への意識や知識を高め、多様な人々の命と文化財を守ることを目標に、ICTを活用して課題研究を行っています。音声をつけたパワーポイントを作成し、ネットワークで海外の学校と共有します。さらにテレビ会議を通して対話・質疑応答の機会を持ち、その成果を英語で発信することで国際協働学習を充実させています。その結果、視野が広がり、論理的思考力、問題解決能力、英語でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が養われています。

1. はじめに

2016年8月4日、防災世界子ども会議が新潟で開催されました。気候変動と私たちの住むまちの「防災・減災・復興」をテーマとした取り組みの成果発表会です。地元の中高校生他約100名に加えて、イラン・トルコなど自然災害の影響を多く受ける海外の10カ国・地域から約100名の小中高生他が一堂に会し、課題研究の発表や質疑応答・意見交換が行われ、NDYS2016(新潟)宣言が採択されました。

神戸市立葺合高等学校は、2016年度に文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)実施3年目を迎えています。5年間の研究課題は「神戸から綾なせ世界、共生への道を開くグローバル・リーダー育成」です。

未来のグローバルリーダーを育成するために、新しく学校設定科目グローバルスタディーズ(GS)を設け、教科横断型の授業、大学・国際機関・企業・NPOの専門家を授業に招くなどの取組を継続し、揺るぎないMAKSマックス(M:人間力 A:実践力 K:知識力 S:言語力)を持った生徒を育成しています。

本校が考案したMAKSは16の力から成り立っています。①多角的な視点を持つ多面的で広い視野 ②柔軟性に富んだ問題解決能力 ③論理的思考力 ④デジタルツールを多面的に使いこなす能力 ⑤他国の文化・歴史に対する理解と広い知識 ⑥高いコミュニケーション能力 ⑦高いプレゼンテーション能力。

そしてその取り組みの中心になっているのが、課題研究→国際協働学習→社会貢献活動です。

生徒達は、国連の持続可能な開発目標SDGsから防災、気候変動の分野に絞り、テーマを設定し、課題研究を深めています。その理由は、世界全体で取り組むべき解決を急ぐ課題であり、阪神・淡路大震災からの経験を生かし、地域コミュニティとのつながりを通して、社会貢献活動ができる分野だからです。

2. 目的と方法

2-1 目的

課題研究・発表の目的のひとつは、防災に対して多様な人々の関心を深め、人々の命と文化財を守るための活動に積極的に参加していただけるように啓蒙活動を行うことです。そのために課題を見つけ、分析し、グローバルな視点を持って改善法を提示し、発表を行っていきたいと考えています。さらに海外の同世代の人々と意見交換をすることで、将来、いろいろな形で協働できることを期待しています。

2-2 方法

参加形態：新潟会場と本校コンピュータ室をつないだテレビ会議

参加者：2・3年生6名 課題研究発表

1・2年生18名+教員4名

テレビ会議に参加

期間：課題の研究期間

3年生 2015年9月から6ヶ月

2年生 2016年4月から4ヶ月

内容：海外の高校生と互いに防災への取り組みの成果をパワーポイントを使った発表を行い、質疑応答をしました。

3. 活動内容

ICTを活用したVR（バーチャルリアリティ）しながら、新潟会場と学校をつなぎテレビ会議参加しました。発表のパワーポイントは、英語での説明音声をつけたプレゼンテーションを用意して、会場で流していただきました。タイトルは3年生による“Providing Disaster Related Information to Non-Japanese People in Japan”（「災害と日本語の理解が不十分な住民への情報提供」）と2年生による”Protecting Our Heritage from Earthquakes”（「歴史的建造物を地震から守る啓蒙活動」）の2本でした。

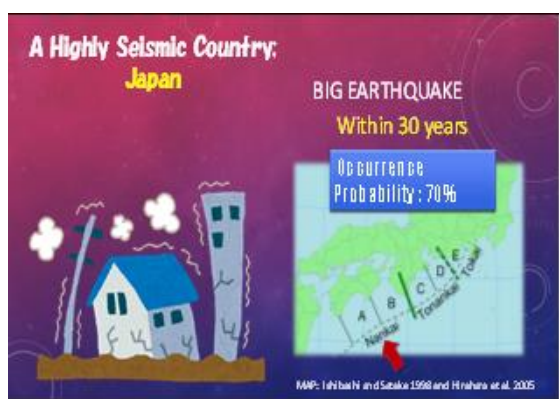


Fig.1 発表のパワーポイントの一枚 3年生の作品

音声つきパワーポイントでの発表を観客にわかりやすくするために、スライドの活字の大きさ、色、字と絵のバランスに普段以上に配慮しました。また、音声面では、発音の明瞭さ、話す速さや間、声のピッチ、感情をどのように入れるかまで、何度も意見を出し合い、録音し直しました。

当日、会場の熱気の中、パワーアップした発表ができ、海外の中高校生とリアルタイムでの話し合いや意見交換ができました。



Fig.2 葺合高校の様子が映っている新潟会場のスクリーン

新潟の会場には、生徒が神戸新聞社の協力を得て英訳した阪神・淡路大震災関連記事を展示していただきました。大震災発生から1週間の出来事をまとめた英語のパンフレットと神戸新聞社の震災展示室に掲示されている震災後の記事の英訳、近年世界で起こっている自然災害を知らせる記事の英訳でした。多くの参加者に手にとって見ていただくことで、一人ひとりが防災意識を強く持ち、地域における責任ある防災実践者として取り組まねばならないことを感じてもらえたら大変嬉しいことです。

神戸市の中央に位置し、生徒が3名亡くなった高等学校の責務として、22年前の出来事が風化しないように、さまざまな形で世界の人々に伝えていくことの大切さを改めて感じました。

4. 成果

課題研究のスタートは課題の発見から始まります。上記の2つの研究も、数字による統計の提示やネットによるデータ検索だけではなく、神戸市役所、教育委員会、幼稚園や小学校でインタビューを行いました。その過程で現状がより明確になり、解決を困難にしている問題がどこにあるのか、解決策の糸口はあるのかが見えてきます。

課題研究は、多角的な視点を持つ多面的で広い視野や柔軟性に富んだ問題解決能力を育てます。また、聞き手を意識して発表するためには、論理的思考力やデジタルツールを多面的に使いこなす能力やプレゼンテーション能力を身につけなければなりません。質疑応答や議論を深めるためにはコミュニケーション能力が必須で、高い英語の運用能力も欠かせません。そして多くの問題に真摯に取り組み、アドバイスをくださる人々との出会いの中で、生徒は、真剣に自分の生き方を模索し、社会に貢献したいという気持ちが強くなってきました。

3年生生徒の感想：災害が起こった際に、日本語の理解が不十分な住民にどのように対応すればいいのかについて考察し提案を考えました。これは世界のどの国でも検討できる問題であると思います。テレビ会議では予想より多くの人々が防災に関心を持っていることを知ることができました。今後もグローバルな視点で防災についてさらに知識を深めていきたいと思っています。